

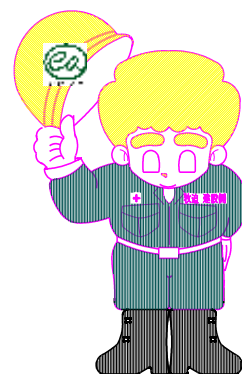
2017年度

# 環境活動レポート



## 牧迫建設株式会社

活動期間 2016年10月～2017年9月



**Eco Action Report**

発行：2017年10月18日  
改訂：2018年7月1日

## 目 次

1. 環境方針	3
2. 事業概要	4
(1) 事業者名及び代表者名	
(2) 所在地	
(3) 環境管理統括責任者氏名及び担当者連絡先	
(4) 事業内容（認証・登録の範囲）	
(5) 事業の規模（2017年度）	
(6) 全社の組織図	
(7) 保有機械等	
3. 環境管理実施体制	5
4. 2017年度環境目標とその実績	6
5. 2017年度主な環境活動計画	7
6. 2017年度環境活動と次年度取り組み	8
7. 3カ年目標（2018～2019年度）	9
8. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無	10
9. 2017年度全体の評価と見直し	10



## 《環 境 方 針》

牧迫建設株式会社は、鹿児島県を拠点に“快適な住環境を創造”する建設業として、持続可能な社会基盤構築の重要性を認識し、自らの事業活動、施工及びサービスを通して地域社会はもとより、地球環境保全に全社員で取り組みます

具体的に以下の項目を重点的に活動を展開します

### 1. 環境マネジメントシステムの継続的改善

建設事業に係わる環境影響を認識し、地球環境保全に努めると共に環境マネジメントシステムの継続的改善を図ります

### 2. 環境法などの順守

建設事業に関わる環境関連の法律、条例及び同意したその他の要求事項をまとめ、毎年定期的に評価するとともにそれらを遵守します

### 3. 公害防止活動

建設現場における騒音・振動の低減、土壌・地下水・河川及び大気の汚染防止、粉じん飛散防止に努めます

### 4. 環境負荷低減及び有益な取り組み

当社の事務所、資材置場、建設現場等における事業活動が影響を及ぼす環境影響の中で、以下の項目を特に重点項目として取り組みます

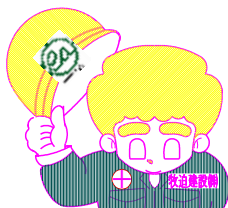
- (1) 地球温暖化防止：電力及び燃料使用時の二酸化炭素排出の低減
- (2) 資源の循環利用：一般・産業廃棄物の3R（リデュース・リユース・リサイクル）
- (3) 水道と排水削減：水道の節水と雨水の利用
- (4) 環境配慮の工事：環境配慮型機材使用と工法の提案
- (5) 環境配慮材使用：事務・建設資材のグリーン製品の購入
- (6) 地域コミュニケーション：地域清掃とボランティア活動への参加及び支援

これらについて、中期環境目標の設定と環境活動計画を策定し、実行するとともに毎年定期的に評価し、見直します

### 5. 環境方針などの周知

環境方針は全従業員に周知するとともに協力会社に対して理解と協力を求め、方針達成を目指します

また、環境方針は社外に公表します



制定日：2007年12月1日

改定日：2015年10月1日



牧迫建設株式会社

代表取締役

牧迫英敏

## 2. 事業概要

### (1) 事業者名及び代表者名

牧迫建設株式会社  
代表取締役社長 牧迫 英敏

### (2) 所在地（認証・登録の範囲）

本 社	〒890-0021 鹿児島県鹿児島市小野一丁目12番2号	723m <sup>2</sup>
小野資材置場	〒890-0022 鹿児島市小野町4786-8	429m <sup>2</sup>
犬迫資材置場	〒891-1205 鹿児島市犬迫町7094-2~4	1,100m <sup>2</sup>

### (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責 任 者：牧迫 俊生  
担 当 者：牧迫 則子  
連 絡 先：TEL 099-220-7148 FAX 099-220-7138  
Eメール makisakokk@globe.ocn.ne.jp

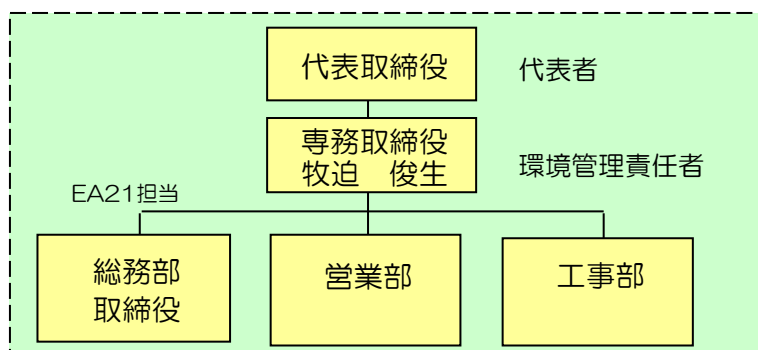
### (4) 事業内容（認証・登録の範囲は建設業のみ）

- ◎ 建設業許可番号 鹿児島県知事 許可(特-27) 第697号  
種類（土木、建築、大工、とび・土工、屋根、鉄筋、舗装、防水、内装仕上工事業）  
許可の有効期間 平成28年3月6日から平成33年3月5日まで  
種類（解体工事業）  
許可の有効期間 平成28年9月6日から平成33年8月31日まで
- ◎ 産業廃棄物収集運搬業許可証  
許可の年月日 第04607035887号  
許可の有効期間 平成27年12月11日から平成32年12月10日まで  
事業範囲（廃プラスチック類、ゴムくず、金属くず、ガラス及び陶磁器くず  
コンクリートくず、がれき類、紙くず、木くず、繊維くず）

### (5) 事業の規模（2017年度：2016年10月～2017年9月）

完成工事高 339百万円  
従業員数 15名

### (6) 全社の組織図



### (7) 保有機械等

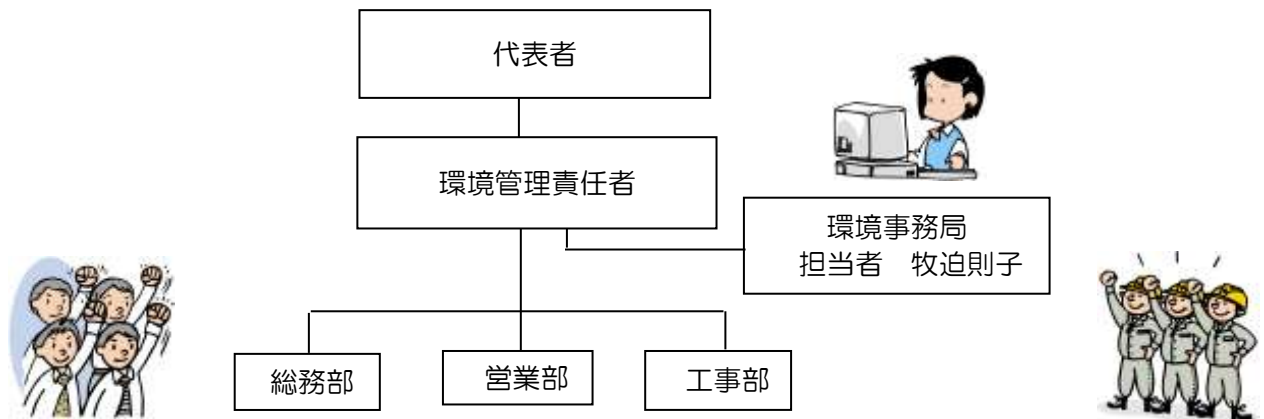
・ユニック 4 t	1台	・軽トラ	7台
・ユニック 6.5 t	1台	・乗用車	3台
・ダンプ 3 t	2台、	4 t	3台

### (8) 産業廃棄物受託収集・運搬量

- ・2018年度（2017年10月～2018年5月）8ヵ月間
- ・746 t

### 3.環境管理実施体制

当社の環境経営システムを推進するための組織と役割は次の通りです。



担当者	役割・責任・権限
代表者 (代表取締役)	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営に関する統括責任</li> <li>環境経営システムに必要な人、設備、費用、時間、技能・技術者を用意</li> <li>環境管理責任者を任命</li> <li>環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知</li> <li>環境目標・活動計画書を承認</li> <li>代表者による全体の評価と見直しを実施</li> <li>環境活動レポートの承認</li> </ul>
環境管理責任者 (専務取締役)	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営システムの構築、実施、管理</li> <li>環境関連法規等の取りまとめ表を承認</li> <li>環境目標・活動計画書を確認</li> <li>環境活動の取組結果を代表者へ報告</li> <li>環境活動レポートの確認</li> </ul>
環境事務局 (総務部)	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境管理責任者の補佐</li> <li>環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施</li> <li>「環境関連法規等取りまとめ表」の作成</li> <li>「環境関連法規等取りまとめ表」に基づく遵守評価の実施</li> <li>環境目標・環境活動計画書原案の作成</li> <li>環境活動の実績集計</li> <li>従業員に対する教育訓練の実施</li> <li>環境関連の外部コミュニケーションの窓口</li> <li>特定された緊急事態への対応のための手順書作成、テスト・訓練・記録</li> <li>問題点の発見、是正、予防処置</li> <li>環境活動レポートの作成、公開</li> </ul>
各部部长	<ul style="list-style-type: none"> <li>自部門における環境経営システムの実施</li> <li>自部門における環境方針の周知</li> <li>自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の環境事務局報告</li> <li>特定された項目の手順書作成及び運用管理</li> <li>自部門の問題点の発見、是正、予防処置の環境事務局報告</li> </ul>
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚</li> <li>決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加</li> <li>環境改善への意見提案や環境問題・異常時の上司への報告</li> </ul>

## 4. 2017年度環境目標とその実績

### 【過去の主な環境負荷の実績】

項 目	単 位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	
		2013.10~ 2014.9	2014.10~ 2015.9	2015.10~ 2016.9	2016.10~ 2017.9	
電力使用量	購入電力	kWh	7,644	7,475	7,637	7,882
	CO <sub>2</sub>	kg-CO <sub>2</sub>	3,891	3,805	3,887	4,012
燃料使用量	ガソリン	ℓ	11,460	9,461	12,195	10,521
	軽油	ℓ	14,914	33,374	27,196	25,688
	CO <sub>2</sub>	kg-CO <sub>2</sub>	65,005	109,390	99,546	91,709
CO <sub>2</sub> 排出量合計		kg-CO <sub>2</sub>	68,896	113,195	103,433	95,721
産業廃棄物リサイクル率（現場）		%	99.4	99.8	98.1	99.6
水使用量（本社）		m <sup>3</sup>	18	18	30	26

※電力のCO<sub>2</sub>排出係数は、九州電力平成27年度実排出係数0.509 kg-CO<sub>2</sub>/kWhです

### 【2017年度の目標と実績】

項 目	単 位	2016年度	2017年度				
		2015.10~ 2016.9	2016.10~2017.9				
		基準値	目 標	実 績	増 減	評 価	
CO <sub>2</sub> 排出量	電 力 ※	kg-CO <sub>2</sub>	3,887	3848 △1%	4,012	+3.2%	×
		kWh	7,637	7,561	7,882		
	燃 料 ガソリン・軽油	kg-CO <sub>2</sub>	99,546	98,551 △1%	91,709	△7.9%	○
		ℓ	39,391	38,997	36,209		
グリーン製品の購入		グリーン/購入数	65	19/25	+11%	○	
	%	60		76			
環境配慮工事	件	配慮/受注件数	50	71/152	0%	×	
	%	50		47			
産業廃棄物リサイクル率（現場）	t	資源化/排出	98	1,930/1,938	+1.6%	○	
	%	98		99.6			
水使用量	m <sup>3</sup>	30.0	29.7 △1%	26.0	△13.3%	○	
地域清掃	回	9	9	9	0%	○	

※電力のCO<sub>2</sub>排出係数は、九州電力平成27年度実排出係数0.509 kg-CO<sub>2</sub>/kWhです

評価：○達成、×未達成

## 5. 2017年度主な環境活動計画

### ・二酸化炭素排出量の削減

#### 電気使用量の削減

- ・同じ室内でも、使用状況により、使用していない照明は消す。
- ・自然光を活用できる場所は、照明を減らす。
- ・外出、昼休み中は、事務所内の照明を切る。
- ・外出、昼休み中は、パソコンの電源を切る。
- ・エアコンの設定温度を夏季28℃、冬季20℃に設定し、ウォームビズ、クールビズを推進する。



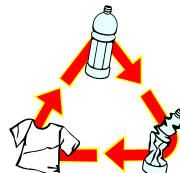
#### 燃料の削減

- ・自動車燃費向上目標の説明
- ・アイドリングストップ
- ・制限速度・積載量の遵守
- ・冷暖房控えめ使用



#### 一般、産業廃棄物の削減

- ・コピー紙使用量の削減
- ・社内LANの活用によりペーパーレス化を図る。
- ・FAX使用からメールの活用によりペーパーレス化を図る。
- ・ミスコピーの裏紙利用、両面印刷の推進により使用量を削減する。
- ・廃棄物を分別保管しリサイクル可能な物は再生にまわす。
- ・混合廃棄物を少なくする為さらに分別処分に努める。



#### 水使用の削減

- ・節水に努める。
- ・雨水を貯留し手洗い、洗車、打ち水に使用する。



#### 環境配慮の工事

- ・環境配慮型機材使用と工法の提案
- ・環境にやさしい『かごしま木の家』づくりと地域の木材の利用拡大に取り組む
- ・地域材を活用した、桜島の降灰による日常生活への影響を軽減する  
鹿児島型長期優良住宅の普及をグループで推進する

#### 環境配慮材使用

- ・事務・建設資材のグリーン製品の購入の推進








#### 地域保全活動

- ・地域の清掃活動・ボランティア活動に積極的に参加する。



## 6. 2017年度環境活動と次年度取り組み

2016年10月～2017年9月までの活動の実績評価と次年度の取り組みは次の通りです。

取り組み計画	評価と次年度取り組み
<b>電力の削減</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>冷暖房の控えめな使用 (冷房28℃ 暖房20℃)</li> <li>クールビズ・ウォームビズ運動</li> </ul>	目標達成ならず  夏場での冷房対策は、午前中の使用を控え(扇風機を活用)日中の温度28℃を続けて推進してきました。 年々暑さが厳しくなり、午前中からつけてしまいがちですが、出来るだけ省エネに取り組みます。
<b>燃料の削減</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>アイドリングストップ</li> <li>制限速度・積載量の遵守</li> <li>冷暖房控えめ使用</li> </ul>	目標達成  急発進やアイドリングストップ、積載量の厳守などエコドライブを継続して取り組みます。
<b>産業廃棄物の削減</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>有効利用による処理の軽減</li> <li>分別の徹底による有価物化</li> </ul>	目標達成  毎年、混合処分を削減する活動計画を推進し、リサイクル可能なものは分別し、再生化しています。
<b>グリーン製品の購入</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>事務用品のグリーン購入</li> </ul>	目標達成  購入月ではらつきがあり、安定した購入を目指し、今後も継続して、グリーン購入に取り組みます。
<b>環境配慮の工事</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境配慮型機材使用と工法の提案・研究会</li> <li>県産木材の利用拡大</li> </ul>	目標達成ならず  環境配慮機材の使用や本格的に環境配慮した建築工事に広報・営業に取組みましたが、価格があわず今期は実現できませんでした。 次年度も実現に向け、積極的に取り組みます。
<b>節水</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>雨水タンクに貯水し、散水や植栽利用</li> </ul>	目標達成  雨水タンクでの水使用が貢献している 今後も、節水、雨水利用の活用を推進します。
<b>地域の清掃活動</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域清掃活動推進</li> <li>業界団体清掃活動への参加</li> </ul>	目標達成  今後も地域の清掃活動やボランティア活動に積極的に参加します。



## 7. 3カ年環境目標2・3年目（2018～2019年度）

項 目		基準値 実績 2016年度	2018年度	2019年度	
		2015. 10～ 2016. 9	2017. 10～ 2018. 9	2018. 10～ 2019. 9	
CO <sub>2</sub> 排出量 削減	電気使用量の削減 ※	7,637 kWh	7,484	7,408	
		3,887 kg-CO <sub>2</sub>	3,809 △2%	3,770 △3%	
	燃料使 用量の 削減	ガソリン	12,195 ℓ	11,951	11,829
		軽油	27,196 ℓ	26,652	26,380
	CO <sub>2</sub> 計	99,546 kg-CO <sub>2</sub>	97,555 △2%	96,560 △3%	
グリーン製品の購入		購入率 60%	70	75	
環境配慮工事 (配慮工事件数/工事件数)		50%	55%	60%	
産業廃棄物のリサイクル化 (資源化量/排出量 t)		98%	98	98	
水使用量の削減		30.0 m <sup>3</sup>	29.4 △2%	29.1 △3%	
地域清掃活動		9回	9	9	

※電力のCO<sub>2</sub>排出係数は、九州電力2015年度実排出係数0.509 kg-CO<sub>2</sub>/kWhです

## 8.環境関連法規制等の違反、訴訟等の有無

### 環境関連法規制等の順守状況

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される施設等
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物
建設リサイクル法	新設工事及び解体改修工事
再生資源利用省令	指定副産物（建設発生土、アスファルト・コンクリート塊の利用）
指定副産物利用促進省令	指定副産物（建設発生土、アスファルト・コンクリート塊の利用）
自動車リサイクル法	自動車
家電リサイクル法	テレビ、冷蔵庫、エアコン

環境関連法規及び条例等への遵守状況について、平成22年4月から違反はありません。また、行政からの指導、地域住民からの苦情や要望・訴訟等は過去7年間ありません。

## 9. 2017年度全体の評価と見直しの結果

### 環境活動の取り組み結果の評価

- (1) エコアクション21の取組みを始めてから、10年半が経過し、社内における環境活動の意識は概ね定着しつつあります。マネジメントシステムの運用も定着化してきています。社員の環境に対する意識はアップしています。
- (2) 燃料削減では、工事種目や工事場所に大きく左右されます。工事量が減ったため今年度は燃費削減は実現できました。
- (3) 電力使用量については、空調の使用が増え、目標を達成することは出来ませんでした。改善として環境配慮設置補助金を活用し、駐車場の照明をLEDに切替える等環境に配慮する対策を行いました。  
コピー紙の使用量は、FAX使用からメールの活用、ミスコピーの裏紙利用、両面印刷の推進、社内LANの活用により使用量を削減することができました。  
グリーン調達として再生紙は継続して使用していきます。
- (4) 産廃については混合廃棄物を少なくする為、廃棄物の分別に努め、リサイクル可能な物は資源化にすることによりリサイクル率の向上につながり、埋立処分が削減されています。
- (5) 水使用の削減は、今後も節水と雨水利用を続けていきます。

### 今後の取組み

- (1) 環境システムの構築と従業員への周知徹底は、これまで以上に努力し、推進していきます。
- (2) 環境配慮のグリーン製品の利用、家づくり、街づくりを一層推進していきます。
- (3) 企業のイメージアップにもつながる地域のボランティア活動にさらに積極的に参加していきます。
- (4) 『環境配慮工事』・『環境配慮材使用』は、具体的目標を掲げて取り組みます。